

安全で安心できる長岡高専をめざして

～安全で安心できる学校環境と教育体制構築のための提言と実行～

(第一版)

平成 24 年 3 月 31 日

長岡工業高等専門学校

安全で安心できる環境と体制づくりワーキンググループ

目 次

1. 本報告書の目的	2
2. 提言の基本方針	2
3. 本報告書の範囲	2
4. 安全で安心できる学校環境の改善整備への提言	3
4-1. 学校内の環境整備	3
4-2. 学生寮の環境整備	4
5. 人間としての総合力を育てる教育内容と教育体制の構築への提言	6
5-1. 教育活動	6
5-2. 学生支援活動	8
6. 学生および教職員のメンタルケア体制の強化への提言	12
7. 危機管理システムの整備への提言	13
8. アンケート調査とその結果	14
9. 危険箇所および不安要因の改善状況	26
10. まとめ	28
安全で安心できる環境と体制づくりワーキンググループメンバー	28

1. 本報告書の目的

平成23年2月14日、本校で発生した学生死傷事件を踏まえ、このような事件の再発を防止するために、学生・教職員の安全を確保できる環境を整備すること、および学生が安心して教育を受けることのできる体制を構築することを主眼とした提言をまとめ、本提言の実行状況を報告することを目的とする。

2. 提言の基本方針

検討にあたって、まず以下の3点を基本原則として確認した。

- a) 教職員一人ひとりが安全管理と人間教育の重要性を再認識し、長期間にわたって実行可能な安全管理および教育体制であること。
- b) これまでの本校の安全管理を生かしつつ、教育理念および学習・教育目標と調和した安全管理および教育体制であること。
- c) 教職員の負担が過重にならない安全管理および教育体制であること。

そこで、これらの基本原則をもとに、安全で安心できる学校生活を確保するためには、施設・設備などハード面の整備だけではなく、教育活動やメンタルヘルスなどソフト面での体制強化、およびいざという場合の危機管理体制の構築が必要であるとの認識の下に、以下の項目について検討を行った。

- (1) 安全で安心できる学校環境の改善整備
- (2) 人間としての総合力を育てる教育内容と教育体制の構築
- (3) 学生および教職員のメンタルケア体制の強化
- (4) 危機管理システムの整備

3. 本報告書の範囲

平成24年3月31日時点において未だ裁判は開始されず、事件の詳細が明らかになっていないことから、本報告書は「事件の再発を防ぐために実施できること」に観点をおいて提言をまとめ、全学生および全教職員にアンケートを実施して危険箇所と不安要因を明らかにした上で、それらの現時点での改善状況を示したものである。

4. 安全で安心できる学校環境の改善整備への提言

4-1. 学校内の環境整備

(1) 事故・事件や不審者の侵入を防止するための対策

① 出入口の改善による校内のセキュリティ確保

- 関係者以外の入校制限に関する標識（「本学の関係者以外の入校は、ご遠慮願います」等の看板）を正門近くに設置する。
- 外来者は庶務係の受付を通るように誘導する（実施済み）。

② 来訪者のための案内図の充実

- 受付で校内案内図を渡して、来訪者が目的の場所に行けるよう適正な誘導をする。
- 校内で見知らぬ人を見かけた場合には積極的に挨拶と声掛けを行なう。

③ 夜間照明（外灯）の増設と暗い箇所の改善

④ 各部屋・研究室の鍵の管理

- 鍵の管理については、従来通り各部屋の管理責任者により適切に管理することとする。ホームルーム以外の講義室が空き時間の時には鍵かけを行う。情報処理センターに関しては、入退室管理の記録が取れるキーシステムについて導入の検討を行う。

(2) 事故・事件や不審者を早期に発見するための対策

① ネームプレートの着用

- 教職員のネームプレートの着用を徹底する。

② 視認性の確保

- 教員室・実験室の通路側ブラインドの開放を徹底する（密閉性の排除）。
- 植栽などの定期的な点検を実施する（実施済み）。

③ 防犯カメラの設置と記録の保存

- 校内の死角となる箇所にWebカメラを設置し、モニタリングする。
- 記録の保存については、各カメラにつき1秒1コマとし、期間は2週間以上とする。

(3) 事故・事件・災害に対する安全・安心の確保

① 避難経路の定期的な点検

- 廊下、踊場は避難路として確保し、物を置かないことを徹底する。

② 複数の避難経路の定期的な確認

- 夏期、冬期（積雪時）それぞれの状況に応じた避難路を確保する。

③ 災害時対応自動販売機の設置

- 災害時における機内在庫製品の無料提供による飲料水の確保
- 災害時の校内学生へのメッセージ配信

- ④防災器具、食料等の確保
 - 非常用電源、簡易トイレ、救助工具類、ラジオ、懐中電灯、食料、毛布等の整備・備蓄
- (4) 連絡・通信機器の整備等
 - ①校内の通報システムの点検
 - 緊急方法のみでなく、校内放送についても定期的に点検する。
 - ②緊急連絡網の登録指導
 - 学校からの連絡がスムーズにできるように、保護者と学生の携帯電話番号を学生調書に記入するよう指導する（実施済み）。
 - ③緊急事態発生時における警察・消防への迅速な通信体制の確立
 - 緊急連絡網を再確認する（実施済み）。
- (5) 警察到着までの侵入者の暴力に対処する方策
 - ①「さすまた」、「防犯スプレー」を必要な箇所に設置する。
- (6) 安全で安心できる校舎への改修計画
 - ①平成16年に起きた中越地震からの復興にともない、長岡高専においては、校舎の老朽化・耐震化の問題は解消された。しかしながら、校舎内における学生・教職員の安全を確保する意味で、1号館中央棟の吹き抜け、3号館吹き抜け、6号館の非常階段、高層階（4階、5階）の窓等に転落防止策を施す必要があると考える。また冬期間（積雪時）の第1体育館・第2体育館においては、複数の非常口を確保する必要がある。さらに土曜日・日曜日・祝祭日には、正面玄関以外の出入口がロックされたままとなっているが、緊急脱出用のハンマーやワイヤーカッターなどを設置しておくべきである。
- (7) 安全で安心できる学校環境づくりのための意見徴収
 - ①教職員および学生を対象に安全で安心できる学校環境づくりのためのアンケートを実施する。

4-2. 学生寮の環境整備

(1) 事故・事件や不審者の侵入を防止する施設整備の充実

- ①出入口の改善によるセキュリティ確保
 - 学生寮入り口への動線上に寮事務室を置く。
 - 男子寮、女子寮正面玄関は寮生及び学生寮関係者専用とする。
 - 寮生以外の学生および外来者は1号館入り口から入るよう案内板を設置する。
 - 関係者以外の入寮制限に関する標識を寮正面及び男子寮、女子寮正面玄関に設置する。

- 寮事務室に入寮簿を置き、寮生以外の学生及び外来者は入寮簿に記載の後寮に立ち入りを許可する。
- ②夜間照明（外灯）の増設と暗い箇所の改善
- (2) 事故・事件や不審者を早期に発見できる施設設備などの整備
 - ①防犯カメラの設置と記録の保存
 - 男子寮、女子寮、寮1号館入り口に防犯カメラを設置し、寮事務室及び補導直室にてモニタリングする。（実施済み）
 - 寮の非常口及び寮周辺にWebカメラを設置し、寮事務室及び補導直室にてモニタリングする。
 - 記録の保存については、各カメラにつき1秒1コマとし、期間は2週間以上とする。
- (3) 事故・事件・災害に対する安全な避難経路の整備
 - ①避難経路の定期的な点検
 - 廊下、踊場は、避難路として極力物を置かないようにする。（実施済み）
 - ②複数の避難経路の定期的な確認
 - 夏期、冬期（積雪時）それぞれの状況に応じた避難路を確保する。（夏期のみ実施済み）
- (4) 連絡・通信機器の整備等
 - ①寮内の通報システムの点検
 - 緊急放送のみでなく、寮内放送についても定期的に点検する。
 - ②緊急連絡網の登録指導
 - 寮事務室からの連絡がスムーズにできるように、保護者と学生の携帯電話番号を学生調書に記入するよう指導する。また学生メールを毎日確認するよう指導する。
 - ③緊急事態発生時における警察・消防への迅速な通信体制の確立
 - 緊急連絡網を再確認する。
 - ④補導直室に寮内放送設備を設置する。
- (5) 警察到着までの侵入者の暴力に対処する方策
 - ①「さすまた」、「防犯スプレー」を寮事務室、宿直室、補導直室に設置する。
- (6) 安全で安心できる学生寮への改修計画
 - ①学生寮居室等の窓に転落防止柵を設置する。
 - ②学生寮居室等のロッカーについて、転倒防止の措置をとる。
 - ③3号館、4号館、4号館増築の屋上に設置してある柵を、現在の約1mから2m以上に高さを伸ばす。
 - ④3号館、4号館、4号館増築の屋上は冬期は施錠する。

5. 人間としての総合力を育てる教育内容と教育体制の構築への提言

5-1. 教育活動

(1) 教育内容の充実

①安全管理面

- 平成18年度以降の学生便覧に「安全管理マニュアル」が収録されており、毎年全学生に配布されている。また、国立高専機構が作成した「実験実習安全必携」も毎年新入生に配布されている。実験・実習などで、これを参照した指導を行うように徹底を図る。
- 体育施設、実験・実習施設は重点施策経費等の予算で計画的に保守・整備が進められている。体育用具、実験機器などは使用前の安全確認を徹底する。施設・設備の整備や消耗品の更新などが円滑に行われるよう予算措置を行う。

②人格形成・技術者教育の充実

- 必修・必履修授業（本科の現代社会と保健体育、専攻科の科学哲学）の一部として取り扱われている。担当者間の連絡・連携強化を図り、体系的な教育を行う。
- 学外講師による講演会（命の大切さ、AED、エイズ、薬物乱用、交通安全、メンタルヘルス、セクハラ・パワハラ、ビジネスマナーなど）、および学内講師による講演会（情報リテラシー、情報モラルとセキュリティなど）を更に充実させ、年間の取組みとして計画的に実施する。年間計画については、学生・保護者へ周知するためのチラシを年度当初に作成し、配布する。配布チラシの案を資料1に示す。
- キャリアデザイン教育を充実させるため、企業実習参加率50%を目標とする取組みを継続する。
- 国際的視野の涵養、コミュニケーション能力育成を目標に、地球ラボを開設し、学生海外研修の充実を図ってきた。この取組みを継続・強化する。

(2) 教育体制・教員の能力向上

①FD

- 授業公開、教職員向け講演会、授業評価アンケートなどが実施されてきた。しかしながら参加率や実施率が十分ではない取組みがあるので、改善を図る。
- 教員連絡ネットワークの強化を図り、授業担当者と担任、一般科と専門学科間などで適切な情報共有を行い、連携の強化を図るための取組みを行う。
- 高専間の人事交流などを活用し、第三者的な視点で教育システムの点

検・整備を行う。

- 教員の教育力レベルアップのために、経験豊富な本校教員あるいは外部教員による「教育方法論」等の講演会、または県教委・市教委と連携した「実践的教育指導講習会」等を開催する。

②教育システムの点検・改善

- 卒業・進級に関する規定等の点検を行い、平成 23 年度からの実施体制を整備した。運用面で学生に不利益が生じないよう引き続き点検・整備を行う。
- 入試ミスを防ぎ、公平かつ適切な入学者選抜を行うために、推薦入試の面接評価方法を改善し、採点方法・選抜方法の点検を行ってきた。入学者の追跡調査を継続し、入試改善にフィードバックし、入試の実施方法や選抜方法の改善を図る。
- 低学年の学力低下対策として、専門学科の演習科目の導入や TA の活用が行われてきた。その効果を検証し、効率化を進める必要がある。
- 課外活動への参加学生が減少し、対人コミュニケーションの機会・範囲が狭まっていることを考慮し、低学年における混合学級を実施した場合のメリット・デメリットについて検討し、実施の可否を判断する。
- カリキュラム調査、外部評価、認証評価、JABEE 継続審査など、学外の機関による教育システムの点検が行われてきた。引き続き外部評価に耐える堅牢な教育システムの構築に取り組む。

③情報公開／発信・意見聴取能力の強化

- 学科・学年ごとのメーリングリストを作成し、携帯電話への転送サービスを整備することで、電子メールを活用した連絡体制が確立されている。また、学生課から保護者向けメールマガジンが発行・運用（通常は事務手続きなどの連絡に利用）されており、緊急時にも本メールマガジンが利用されている。本校ホームページと併用した情報公開・連絡体制は整備された。今後は、災害時などの全学生・全保護者への緊急連絡を考慮し、学校として運用するメールマガジン体制とし、全保護者の登録を目標とする。
- 保護者を対象とするアンケート結果をもとに、寮生保護者向けに授業公開を実施した。引き続き保護者向けの講演会や授業公開の拡充に向けて検討する。
- 中学校と高専との教育システムの違いを説明し、理解してもらうために、1 年合同保護者会の実施を検討する。

(3) その他

- ①図書館のカウンター業務補助学生を増員し、安全強化および低学年の学力

低下対策への支援を図る。

- ②理工系の学生は、インターネットやゲームの利用時間が増加し、テクノ依存症（ネットホリック、ゲームホリック）となる傾向が強い。現状の調査を行い、心と体の健康を維持するための指導を行う。

5-2. 学生支援活動

(1) 学習環境（生活・教室環境の整備）

- ①学生会・整備委員会を中心に、例年、校内大清掃やクリーン作戦等の清掃・美化活動を行い、学内外の環境整備に努めている。
- ②その一方、一部の教室内（ホームルーム）でのゴミの散乱が目立ち、普段の学習環境として不十分な面があった。また生活の乱れなどの原因により、朝遅刻する学生が一定数存在している。
- ③これらの対策として、清々しい学習環境を整え健全な心の成長を促すことを目的に、平成 22 年度より「美（ミ）シュランガイド」と名付けた清掃支援活動を実施している。これは、調査員が不定期に全教室を見回りし、清掃状況を調査した結果の評価を星の数として公表するというものである。清掃活動の計画・運営は各クラスの主体性に任せることにより、遊び心を持ちつつクラス間の競争意識を高め、かつ学生個々の清掃意識を向上することが期待される。平成 22 年度の実施の結果、綺麗になった教室が格段に増えており、一定の成果が得られたと考えられる。今後も継続して実施することにより大きな教育的効果が期待されると考えられる。
- ④また、学生の生活の乱れの早期発見などを目的として、ショートホームルームを実施している。これは、毎週月曜日の朝、授業時間前の 10 分を利用し、担任より学習・生活上の注意や連絡事項の伝達などを行うものである。平成 22 年度には試行で実施し、平成 23 年度より正式に実施している。実施の際、朝の遅刻が続く学生には家庭への連絡および寮との連携を図る必要がある。

(2) 学生会活動（行事への参加学生数の増加対策）

- ①学生会は学生会長を中心に多くの役員で組織され、年間を通して、学園祭、体育祭、球技大会、遠足等の行事を始め、社会奉仕活動等の各種活動に主体的に取り組み、非常に頼もしい活動を行なっている。
- ②その一方、教職員を含めた学校全体として、上記の学生会行事へ参加する意識が希薄である。その結果、参加学生数はここ数年低迷し続け、学校全体での活気・熱意が十分とは言えなかった。
- ③学生会行事を学校全体で活性化するためには、行事参加学生の数を増やすことが重要である。学生会を中心として行事内容、運営方法などの検討を

重ね、新たな改善案を盛りこみ、かつ事前の学校全体への PR 活動も充実させた結果、平成 22 年度は例年より大幅に参加学生が増え、一定の成果が得られたと考えられる。今後も引き続き、不十分であった内容の修正・改善などを続け、さらなる活性化を目指す。

(3) クラブ活動（参加学生数の減少・平日の活動の低迷からの脱却）

- ① 体育系・文化系クラブともに、高専体育大会や文化発表会を始めとして多くの大会や各種コンテストで優秀な成績を収め、活動はしっかりと継続されている。
- ② その一方、課外活動に積極的に取り組む学生は年々減少傾向にあり、平日の活動を活発に行っているのは一部のクラブにとどまっている。
- ③ クラブ活動を学校全体でさらに盛り上げていくために、その目安としてクラブ部員数を増やすことを目的としている。例年 4 月当初に新入生向けにクラブ紹介を行っているが、より多くの新入生を入部させるため、新たにクラブ見学ツアーなどの企画を検討している。さらに入寮者へは、必ず 1 つ以上のクラブへの入部を義務付けることも検討している。2 年生以上の学生には、再入部・途中入部を促すため、夏季休業中の特別授業週間などを利用したクラブ見学の開放などを検討している。
- ④ またクラブ活動の PR 活動をより一層充実させることも望まれる。一例として、大会での上位入賞の場合のみならず、地域ボランティア活動や演奏会、発表会への参加の報告についても積極的に本校ホームページから発信することなどが挙げられる。これにより「高専」＝「理系の特殊な集団」との偏ったイメージを和らげる効果も期待される。その際、学生教育に関して二次的な情報（施設の調達情報など）はトップページではなくサブページに移動するなど、優先すべき情報が埋もれないような工夫が必要である。
- ⑤ 平成 20 年度に起きた学生引率中の顧問の遭難事故を踏まえ、留守顧問制を立ち上げた。これは遠征中の万一の場合に備えて、遠征に参加しない顧問が留守番役として常に連絡の取れる体制を敷いておくためである。
- ⑥ さらに、従来のクラブ・同好会の活動の枠組みを超えた活動として、教員による補習・勉強会活動の創設や、活動実績を元にした部や愛好会の統廃合を含めた再構築に着手している。

(4) 防災・安全・防犯（冬季の防災対策、防犯意識の向上、交通マナー教育）

- ① 例年、全学生および全教職員参加による防災・避難訓練が行われ、また希望者および体育系クラブの部長を対象とした指導者向けの AED 講習会も実施されており、防災への啓発・指導がなされている。また実験・実習を行う際の「安全管理マニュアル」が学生便覧に収録され、特に機械工場で実

習作業の多い学生に対して、年度当初に安全管理の講習が行われるとともに、毎回の実習作業の際に常に安全への注意喚起がなされている。以上のとおり、防災や事故に対する啓発・指導は必要に応じて行われており、防災および安全管理への意識は保たれていると考えられる。

②その一方、冬季（積雪時）の避難経路が非積雪時と異なるが、積雪時に対応した非常口および避難経路の確認・確保や避難訓練の実施は十分に行われていない。また防災意識に比べて、防犯意識や交通マナーは十分な水準にあるとは言えない。具体的には、例年一定数の現金・自転車などの盗難被害が報告されている。また自転車に関わる事故が近年増加傾向にあり、近隣住民からの交通マナーに関する苦情・報告などが増えてきていることが挙げられるため、防犯意識の向上、交通マナーの遵守に関する教育を更に徹底する。

③防災に関して、「安全・安心の日」を設定し、学生・教職員を対象に平常時と積雪時の年2回避難訓練を実施する必要があると考えられる。特に積雪時における非常口および避難経路を確認し、十分な避難経路を確保することが喫緊の課題である。また、学生寮においても積雪時の避難訓練実施に向けて検討する。また、定期的にAED講習会を開催することも検討している。

④防犯意識の低さに関しては、世界の中での日本の治安の良さ、ひいては本高専周辺地域の治安の良さに起因しているとも言え、一概に悪いとは言えないが、一定水準の自己防衛・防犯の意識は必要である。この対策として平成22年度より、盗難被害の報告が上がった際に、全学生向けに貴重品管理・注意喚起に関するメール発信を行なうことにより、一定程度、防犯意識の低下を防いでいる。

⑤自転車の交通マナーに関しては、全学生に対して随時、校内掲示やクラス担任を通じて交通マナーに関する啓発活動を行っている。また例年4月当初に車両（自動車・自動二輪車）通学生向けの交通安全講習会を実施しているが、自転車の通学者向けには実施していない。そこで今後、自転車通学生向けにも交通マナーの意識を高めるため、交通安全講習会の定期的な実施に向けて検討を行う。また万が一の事故に備えるため、保護者向けに個人賠償責任保険への加入を勧めている。

(5) 緊急連絡体制（保護者への一斉連絡手段の確保）

①課外活動中の事故などの発生に対する対応・緊急連絡網は整備されており、学生便覧（課外活動:2. 事故等への対応）にも掲載されている。しかし原則として保護者への連絡はクラス担任から行うことになっているため、緊急時にクラスの全保護者へ連絡をする事態が生じた場合、担任への負担が

過大となることが予想され、また担任不在の場合への対応も十分整備されていない。

- ②現在、学生課から保護者向けメールマガジンが発行・運用（通常は事務手続きなどの連絡に利用）されており、緊急時にも本メールマガジンが利用されている。また本校ホームページへも在校生やその保護者向けの情報が随時掲載されており、複数の情報共有手段は確保されている。しかし現在のところ、保護者向けメールマガジンの登録者率が6割弱と十分に高い状況ではないため、定期的に登録への勧誘案内を郵送・通知することにより登録率を上げる取り組みを行っているところである。なお、保護者向けメールマガジンについては学生課での試行運用であることから、これを学校として本運用とし、全保護者から登録してもらうことを目指す。また緊急時の担任不在への対応として、副担任もしくは担任を補佐する教員を配置する必要もあると考えられる。

6. 学生および教職員のメンタルケア体制の強化への提言

(1) 学生相談体制の強化

①従来の本学の学生相談室の体制は、室長1名、相談員5名、看護師1名、カウンセラー1名（週一回）である。メンタル面あるいはコミュニケーション能力が弱い学生が増加していることや教員では解決できない事例が増加していることに鑑み、特に常勤カウンセラーの設置や精神科医によるカウンセリング（月1-2回程度）を実施すべきである。また、近隣大学や関係機関との連携強化もこれまで以上に行う。

(2) 各種啓発活動

①メンタルヘルス講習会等様々な講習会を企画運営してきたが、メンタル面のみならず、いじめ・暴力・自殺・性といった内容についてもこれまで以上に踏み込み、講演会や特別活動等を利用しながら、啓発活動を各教員と連携しつつ積極的に推進していくべきである。

(3) メンタル面が弱い学生の情報共有と素早い収集

①従来行ってきた担任との連携だけではなく、各講義担当教職員や学生課等の職員からのボトムアップも行うべきである。相談員・担任だけでは限界があり、学生により相談しやすい教員も異なる。従って、一般教職員からも気になる学生をピックアップしてもらい、一般教職員→担任→相談員→専門カウンセラーという流れを構築し、これまで以上に素早い対応を行う。

(4) 教職員間の連携強化

①教職員間のコミュニケーション不足も情報共有不足の一因となっていることから、他学科及び職員を含めた交流を推奨する。例えば集会室を教員に常時開放し、新聞やポット等を設置し休憩室を提供する等。これは教職員のメンタルケアにも繋がり、教職員間の交流促進はメンタルケアを含めた学生の情報を収集する手段としても効率がよい。これに関連して、コミュニケーションがとれているかをアンケートで調査し、改善を図るのも良いであろう。

(5) 担任の負担軽減

①担任の負担が増加している事に鑑み、担任を補佐する制度の導入も検討すべきである。例えば担任は主事補を兼務しない等の校務分担軽減措置や、副担任制（内容は十分に精査すべき）の検討等。これらは担任の負担軽減に繋がり、学生との対話時間増加による情報収集の迅速化、さらには教員の負担軽減によるメンタルケアにも繋がる。

②中学・高校の退職教員による教育指導支援体制（長岡高専教育サポーターシステム）の構築を検討する。

7. 危機管理システムの整備への提言

- ①「長岡工業高等専門学校リスク管理及び危機対策に関する規程」（資料2）を制定した。今後本規程に示されているリスク事項について、当該委員会は個別のリスク管理および危機対応マニュアルを早急に整備する。
- ②危機発生後の学生相談室の負担が急増しているので、学生相談室の業務をきちんと規定する。
- ③教職員の緊急連絡網は危機の状況に応じて完備している。

8. アンケート調査とその結果

このアンケート調査は平成24年4月に実施した。

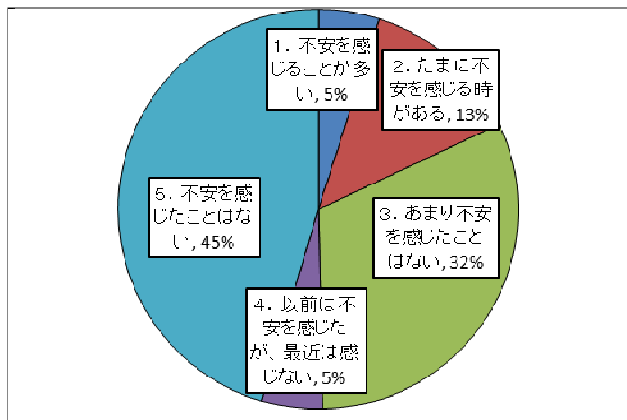
(1) 学生アンケート

全学生に対して行ったアンケートの内容を以下に示す。

「安全で安心できる環境を目指した取り組みについて」アンケート集計表 学生用			
所属	工学科・工学専攻		
学年	年		
枚数	枚		
問1	あなたは、日常生活において何らかの事故・事件が発生するのではないかと不安を感じたことがありますか。次の中からあてはまるものを1つ選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)
	1. 不安を感じることが多い		
	2. たまに不安を感じる時がある		
	3. あまり不安を感じたことはない		
	4. 以前は不安を感じたが、最近は感じない		
	5. 不安を感じたことはない		
	合計		
問2	あなたが、不安を感じる理由は何ですか。次の中からあてはまるものを2つまで選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)
	1. 校舎内・学生寮内に暗がりや見通しの悪い場所などの死角が多いから		
	2. 部外者が容易に敷地内に入ってこられるから		
	3. 学生間および教職員と学生間のコミュニケーションが減ってきたから		
	4. 特に理由はないが、不安を感じる時がある		
	5. その他		
	合計		
	その他の具体的記述 (記入欄が不足の場合は付け足し可)		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
問3	あなたが、校舎内ならびに学生寮内で不安を感じる場所はどこですか。具体的な場所をお書きください。 (記入欄が不足の場合は付け足し可)		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
問4	あなたが不安を感じない理由は何ですか。次の中からあてはまるものを2つまで選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)
	1. 校舎の改修工事が完了し明るくなったから		
	2. 講演会等を通して学生一人ひとりの意識が高まったから		
	3. 以前から問題はなかったから		
	4. その他		
	合計		
	その他の具体的記述 (記入欄が不足の場合は付け足し可)		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
問5	あなたは、安全で安心できる環境をつくるためには、どのような取り組み、対策が特に有効だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)
	1. 学校内の環境整備に努める		
	2. 学生寮の環境整備に努める		
	3. 人間力を養う教育活動を実施する		
	4. きめ細かな学生支援活動を実施する		
	5. メンタルケア体制を強化する		
	6. その他		
	合計		
	その他の具体的記述 (記入欄が不足の場合は付け足し可)		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		

次にアンケート集計結果を示す。

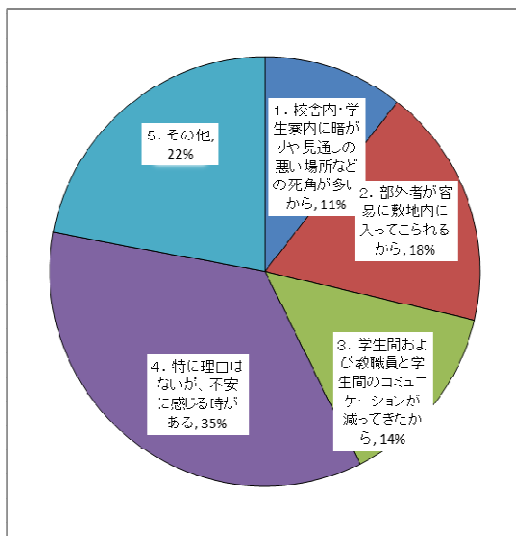
問1	あなたは、日常生活において何らかの事故・事件が発生するのではないかと不安を感じたことがありますか。次の中からあてはまるものを選び、その番号に○印をつけてください。	機械	電気	制御	物質	環境	その他	合計 (数字)	グラフデータ
	1. 不安を感じるが多い	9	9	4	13	5	1	41	5%
	2. たまに不安を感じる時がある	25	12	18	24	7	22	108	13%
	3. あまり不安を感じたことはない	48	43	38	45	41	47	262	32%
	4. 以前は不安を感じたが、最近感じない	9	7	6	10	4	5	41	5%
	5. 不安を感じたことはない	97	49	55	65	55	55	376	45%
		188	120	121	157	112	130	828	100%



問2	あなたが、不安を感じる理由は何ですか。次の中からあてはまるものを2つまで選び、その番号に○印をつけてください。	機械	電気	制御	物質	環境	その他	合計 (数字)	グラフデータ
	1. 校舎内・学生寮内に暗がりや見通しの悪い場所などの死角が多いから	6	3	2	5	3	2	21	11%
	2. 部外者が容易に敷地内に入ってこられるから	7	8	2	10	5	4	36	18%
	3. 学生間および教職員と学生間のコミュニケーションが減ってきたから	4	5	2	9	4	4	28	14%
	4. 特に理由はないが、不安を感じる時がある	16	11	12	15	7	9	70	35%
	5. その他	5	4	7	14	6	8	44	22%
		38	31	25	53	25	27	199	100%

その他の具体的記述 (記入欄が不足の場合は付け足し可)

- ・お金が取られそうである
- ・経験から3回ほど事故にあっている
- ・専門授業の時に使う機材関係
- ・他の学生が何を考えているかわからない
- ・自分自身のストレスがやばい
- ・交通事故
- ・未来がないから
- ・食堂
- ・校風が自由すぎるから
- ・すでに盗難が多発しているから
- ・HRを空ける時があるから
- ・盗難が発生しているから
- ・窓に落下防止用の柵がない
- ・盗難が多発しても、学校側は特に何も対策を立てないため
- ・先生が生徒の理解度を無視して授業を進める
- ・盗難2件
- ・盗難などが多いため何らかの事件が起きても不思議ではないと考えている
- ・車怖い
- ・盗難事件があったから
- ・勉強についていけないか不安に感じることがある
- ・たまに見かける教職員の暴言、いじめ
- ・事件があったから
- ・盗難
- ・車のマナーが悪く、事故になりやすい
- ・留年、勉強
- ・そういった連絡が多いから
- ・毎年いろいろな事件(盗難など)が起きているから
- ・進学
- ・交通、登下校
- ・昨年事件が起きてしまったから
- ・他の高専でも前に事件があったときいたことがあったため
- ・盗難事件がおきる時があるから
- ・留年への恐怖
- ・キモオタ(変質者っぽい)の雰囲気ですぐに変だから
- ・自転車に乗っているから
- ・前例があるから
- ・盗難が多いから

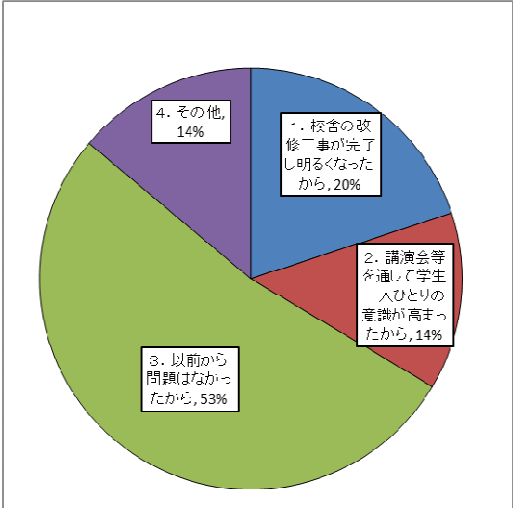


問3 あなたが、校舎内ならびに学生寮内で不安を感じる場所はどこですか。具体的な場所をお書きください。

- ・学校の裏側の自転車置き場の周辺
- ・学生寮内すべてが不安を感じる
- ・誰も使わないトイレ
- ・3号館
- ・体育館倉庫
- ・保健室
- ・更衣室
- ・普段使われていない教室
- ・トイレの出入り口
- ・階段
- ・高いところで柵が低いところ
- ・グラウンド横の狭い路地
- ・図書館の通路が狭い。
- ・寮の入り口。
- ・構内の通路がわかりにくい。行きたい場所にすぐに行けない。
- ・所々日当たりが悪い。
- ・ホームルーム。
- ・教室
- ・夜の校舎。
- ・校舎外だが、若草までの道のり。
- ・教室
- ・障害を持っている人に配慮していない建物
- ・大講義室
- ・喫煙所
- ・現場
- ・人気がないところ
- ・教室
- ・トイレ
- ・玄関前
- ・6号館1階トイレ
- ・4号館4階
- ・宿直室
- ・大講義室
- ・トイレ×3
- ・3号館の吹き抜け
- ・3号館5階
- ・大講義室
- ・トイレ
- ・教室
- ・トイレ
- ・夜の校舎内。
- ・寮の玄関近くに設置してある自販機横の通路。

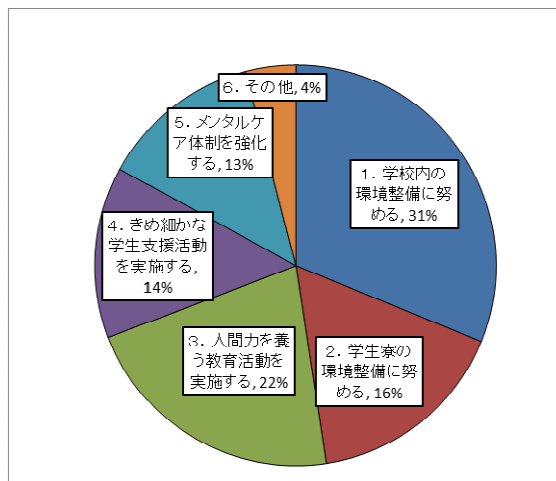
問4	あなたが不安を感じない理由は何ですか。次の中からあてはまるものを2つまで選び、その番号に○印をつけてください。	機械	電気	制御	物質	環境	その他	合計 (数字)	グラフデータ
	1. 校舎の改修工事が完了し明るくなったから	37	12	20	28	26	25	148	20%
	2. 講演会等を通して学生一人ひとりの意識が高まったから	22	9	19	14	19	18	101	14%
	3. 以前から問題はなかったから	88	63	51	70	54	64	390	53%
	4. その他	19	24	11	19	16	14	103	14%
		166	108	101	131	115	121	742	100%

- その他の具体的記述 (記入欄が不足の場合は付け足し可)
- ・気にしもしようがない
 - ・学校の雰囲気慣れてきたから
 - ・深く考えてもしかたがないから
 - ・のんきだから
 - ・心配なことがない
 - ・特に何も思っていないから
 - ・なんとなく
 - ・感じないものは感じない
 - ・雰囲気
 - ・別段不安を感じるような出来事はないから
 - ・学校を信用しているから
 - ・いちいち不安を感じていたら、楽しい学校生活なんておくる事が出来ないから
 - ・他人への関心が低そうだから
 - ・特に理由なし
 - ・特に意識していないから
 - ・理由はない
 - ・そんな不安を感じる暇がないから
 - ・不安を感じる要素がそもそもないから
 - ・感じない性格だから
 - ・どうでもいいから
 - ・学校生活が楽しいから
 - ・友人がいるから
 - ・普段から緊張感がないから
 - ・とくにありません
 - ・その不安を超えるほど学校生活が楽しみだから。



- ・合宿等で雰囲気良かったから。
- ・理由はない。
- ・安全だとか、安心だとか気にした事がないから。
- ・なんとなく。
- ・たいした問題はなさそう。
- ・あまり考えないから。
- ・特に理由はない、特に意識していない。
- ・今回事件が起きたが、高専の環境のせいじゃないし、不安を感じる事は一つもない、安全すぎると感じている。
- ・何も怖くない。
- ・特になし。
- ・あまりにも実感のある事件でもなかったし、何も知らされていないから不安を感じる事はなかった、特に怖くもない。
- ・友人達と楽しく過ごしているから。
- ・気にした事がないから。
- ・このことを考えたことがないから
- ・おもしろいから
- ・感じないから
- ・まだよくわからない
- ・通生になったから
- ・自分自身問題を起こす気がないから
- ・意識していない
- ・あまり考えたことがない
- ・何で不安を感じるかわからない
- ・事件に直接関係しているわけではないので実感がないから
- ・不安を感じることがないから
- ・学校に通っているだけだから
- ・なんとなく
- ・気にしていないから
- ・事件が起きる理由がないから
- ・事件から時間がたったから
- ・特になし
- ・身の回りは平凡だから
- ・不安なことに首を突っ込まないから
- ・特になし
- ・特に私の周辺に問題がないから
- ・「まさか自分が」という意識から
- ・退屈な毎日が続くから
- ・当てはまる要素がないから
- ・勉強の相談を受け付けてくれる優しい先生がいたから
- ・特に理由はない
- ・他人ごとだから
- ・不安になっても仕方がないから
- ・興味ないから
- ・何かあっても対応できると思った
- ・不安を感じる要素がない
- ・気にしないから
- ・学校の事なんて考えないから。
- ・メンタルが強い
- ・実際に事件が起きて学生の意識が変わったから
- ・自分は事件が起きたことがないから
- ・なんとなく
- ・時間がたったから

問5	あなたは、安全で安心できる環境をつくるためには、どのような取り組み、対策が特に有効だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選び、その番号に○印をつけてください。	機械	電気	制御	物質	環境	その他	合計 (数字)	グラフデータ
	1. 学校内の環境整備に努める	106	91	74	85	76	88	520	31%
	2. 学生寮の環境整備に努める	54	58	47	49	28	37	273	16%
	3. 人間力を養う教育活動を実施する	75	57	54	71	43	60	360	22%
	4. きめ細かな学生支援活動を実施する	59	34	34	35	36	33	231	14%
	5. メンタルケア体制を強化する	53	32	32	39	24	35	215	13%
	6. その他	12	19	5	15	10	7	68	4%
		359	291	246	294	217	260	1667	100%



その他の具体的記述 (記入欄が不足の場合は付け足し可)
・楽しく過ごす
・クラス内のコミュニケーションを深める
・学生寮でのストレスを減らす
・教員の強化
・先生の横暴、無駄なことをなくす
・盗難防止
・常識やマナーの指導
・学生の声を聞いてほしい
・プロを全部駆除
・学生課の対応が遅いからそこをなんとかしてほしい
・身体面も鍛える
・知人、先生などに会ったらしっかり挨拶をする
・人とかかわらない
・精神的に強くする
・コミュニケーションをとる
・休みをふやす
・休みを増やして、家で休養できるようにする
・たばこ、飲酒者に、もっと厳罰を与える
・学生全体の行事を増やす。
・楽しい行事を増やす。
・何が起きても崩れない校舎。
・監視カメラをつける。
・人とのコミュニケーション能力を高める(普通科目を学科関係なしの少人数授業など...)
・いくら対策に取り組んでも事件は起こるので被害を最小限にする対策を行うべきでは
・みんなで優しくあう
・あんな事件を防ぐのは不可能だと思います。道徳の授業でも入れてみたらどうでしょうか？
・盗難が多発しているのに警察に通報しないのはおかしい。
・男女で対応が異なる教員がいる。
・直通バスが少ない。あってもぎりぎりすぎる。
・球技大会などのイベントを増やす。
・盗難が多い。
・盗難対策の効果が見られない。
・教員が言っている事とやっている事が違う。
・JABEEが良くわからない。
・6号館のエレベーターの調子が悪い(1F-2F間で金属音がする)。
・学生の要望が反映されているのかわからない。
・集会時に何かあった時に避難が心配。
・4号館のエレベーターに6人程度が乗っても重量オーバーのブザーが鳴る時がある。
・これ以上学生に干渉しないでほしい。
・寮の一年生に対する厳しい伝統を絶対に廃止する。
・一人一人の防犯意識を高めるべきである。
・部活動に打ち込む。
・何をしても無駄。
・興味ない。
・どうにもならない。
・学力上げる
・教員がコミュニケーション力をつける。特に専門科目の教員は無視をしたり本当によくない
・学生のモラル
・結局は一人一人の気持ち
・球技大会や、楽しい体育の授業を増やしてほしい。もっと体を動かしたい。
・ロッカーの鍵を支給する
・学校の統一感を高める
・学校の教育システムの修正
・今まで通りでも十分だと感じる
・個人意識
・教員が進んであいさつをすることが良いと思います
・教職員による校内巡回
・社会的な成長を図る活動
・行事とかでいろんな人とコミュニケーションをとる(行事増やす)
・運動すること
・学生と教職員どうしのつながりの強化
・今のままでよい。
・行事を増やしていろんな人とコミュニケーションを取れるような場所を作る。
・先生次第

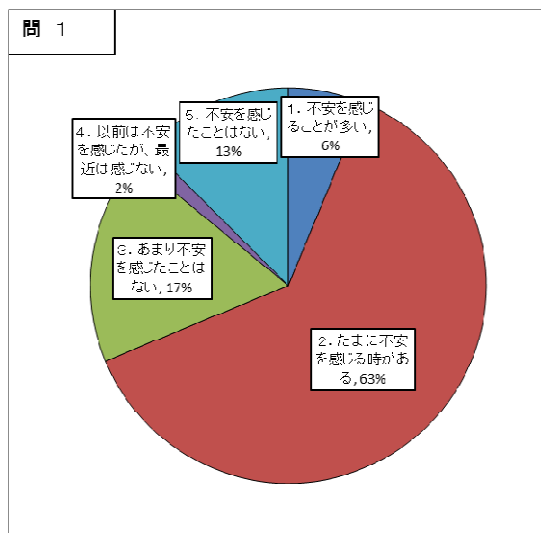
(2) 教職員アンケート

全教職員に対して行ったアンケートの内容を以下に示す。

「安全で安心できる環境を目指した取り組みについて」アンケート集計表 教職員用			
所属			
学年			
枚数	枚		
問1	あなたは、日常生活において何らかの事故・事件が発生するのではないかという不安を感じたことがありますか。次の中からあてはまるものを1つ選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)
	1. 不安を感じる事が多い		
	2. たまに不安を感じる時がある		
	3. あまり不安を感じたことはない		
	4. 以前は不安を感じたが、最近は感じない		
	5. 不安を感じたことはない		
		合計	
問2	あなたが、不安を感じる理由は何ですか。次の中からあてはまるものを2つまで選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)
	1. 校舎内・学生寮内に暗がりや見通しの悪い場所などの死角が多いから		
	2. 部外者が容易に敷地内に入ってくるから		
	3. 教職員間、学生間、教職員と学生間のコミュニケーションが減ってきたから		
	4. 特に理由はないが、不安を感じる時がある		
	5. その他		
		合計	
	その他の具体的記述 (記入欄が不足の場合は付け足し可)		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
問3	あなたが、校舎内ならびに学生寮内で不安を感じる場所はどこですか。具体的な場所をお書きください。 (記入欄が不足の場合は付け足し可)		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
問4	あなたが不安を感じない理由は何ですか。次の中からあてはまるものを2つまで選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)
	1. 校舎の改修工事が完了し明るくなったから		
	2. 講演会等を通して教職員一人ひとりの意識が高まったから		
	3. 以前から問題はなかったから		
	4. その他		
		合計	
	その他の具体的記述 (記入欄が不足の場合は付け足し可)		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		
問5	あなたは、安全で安心できる環境をつくるためには、どのような取り組み、対策が特に有効だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)
	1. 学校内の環境整備に努める		
	2. 学生寮の環境整備に努める		
	3. 人間力を養う教育活動を実施する		
	4. きめ細かな学生支援活動を実施する		
	5. 学生および教職員のメンタルケア体制を強化する		
	6. その他		
		合計	
	その他の具体的記述 (記入欄が不足の場合は付け足し可)		
	.		
	.		
	.		
	.		
	.		

次にアンケート集計結果を示す。

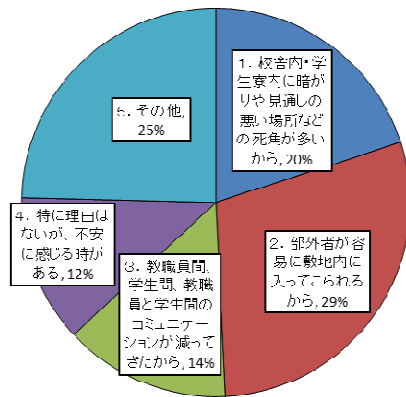
問1	あなたは、日常生活において何らかの事故・事件が発生するのではないかと不安を感じたことがありますか。次の中からあてはまるものを1つ選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)	グラフデータ
	1. 不安を感じる人が多い		4	6%
	2. たまに不安を感じる時がある		40	63%
	3. あまり不安を感じたことはない		11	17%
	4. 以前は不安を感じたが、最近を感じない		1	2%
	5. 不安を感じたことはない		8	13%
	合計		64	100%



問2	あなたが、不安を感じる理由は何ですか。次の中からあてはまるものを2つまで選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)	グラフデータ
	1. 校舎内・学生寮内に暗がりや見通しの悪い場所などの死角が多いから		13	20%
	2. 部外者が容易に敷地内に入ってこられるから		19	29%
	3. 教職員間、学生間、教職員と学生間のコミュニケーションが減ってきたから		9	14%
	4. 特に理由はないが、不安を感じる時がある		8	12%
	5. その他		16	25%
	合計		65	100%

その他の具体的記述 (記入欄が不足の場合は付け足し可)
・これだけの人がいて何もいわけない
・学生への教育不足
・学生も教員もゆとりを失い、ギスギスしがち
・危険と思われる場所に学生が立ち入れるから
・スズメバチなどが校舎内に入りやすい箇所があるから
・校務・雑務が増えてきたため、学生とのコミュニケーション時間が減ってきている
・車輛・バイク・自転車での通学が混在する
・学生、若い教員との価値観の相違
・学校であれ、どこであれ、いつか必ず何か起きるものだから
・ニュースなどでいろいろな事件・事故を耳にするから
・予見される危険事象が多い中、危険源に対する対策が単一な点が多いため
・実験や研究活動では万全の体制をとっているつもりでも、常に注意は必要。
・ブラインドが常に下がっている部屋が多い(教室・教員室・研究室)
・メンタルが弱い学生の突発的な行動
・土日・平日夜間において部外者が容易に入ってこられる(守衛の方が見逃せば)
・教員が忙しいと感じるから
・窓の設置が低いところがあり、転落防止の柵もないので、落ちやすいかも感じたことがある。
・高専坂での自転車のスピードの出しすぎ、並列走行
・学生のメンタル面でのもろさが以前より増した気がする
・校内における交通安全。特に通勤・通学時。
・3号館アトリウム・寮側入口上階のような、降りれる・落とせる場所がある

問 2

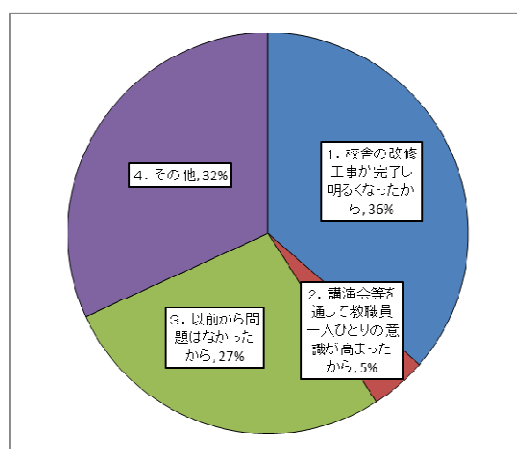


問3	あなたが、校舎内ならびに学生寮内で不安を感じる場所はどこですか。具体的な場所をお書きください。
	・3号館吹き抜けが吸い込まれそうです
	・合宿所の宿直室。窓から人が入って来そうです。最低でもカーテンが欲しい。
	・6号館非常階段
	・第2体育館の周り
	・鍵のかかっていない部屋に学生が自由に昼間でも入れる
	・階段下
	・裏門側駐車場(夜間22:00以降)
	・多目的広場に向うグランド横の通路、非常に暗い
	・使用頻度の少ない教室
	・喫煙エリア
	・1号館と4号館の間の道路。校舎から道に出るときに車が見えない。
	・薬品などを取り扱う実験室
	・渡り廊下
	・各研究室(廊下側のブラインドを閉めており、外からでは何をやっているかわからない)
	・学生部室3(音楽系サークル)
	・3号館吹き抜け
	・多目的広場及びそこにつながるグランド脇通路
	・夜間の6号館前(ごみ集積所)
	・夜間の校舎から多目的広場への道
	・寮屋上
	・寮周辺(正面以外)
	・多目的広場への出入り口(車輦)
	・高専坂(歩行者用階段から飛び出てくる場合)
	・5号館3F:廊下の窓から1号館・3号館の間の通路の屋根に上れる
	・4号館2F・3F:420や430の外の廊下で走ってきた学生とぶつかりそうになる
	・5号館の各部屋、網戸がないので窓を開けると虫が入ってくる。スズメバチが入ってきたこともある。是非5号館に網戸を付けてください。
	・第2体育館脇・多目的駐車場など、夜間に学生がいることがある。
	・建物の窓際:最近の建物は窓などが低くできており、背の高い人が窓際に立ってバランスを崩したら転落する可能性を感じる。
	・校内の道路等:学外の人(保護者、業者、地域開放の利用者)が車で入ってきた際、一部に制限速度を守らない、一時停止しない、通行の妨げになる場所にいることがあり、ときどき交通事故の可能性を感じる。(実際に事故が起きているし、ヒヤッとすることもある。)

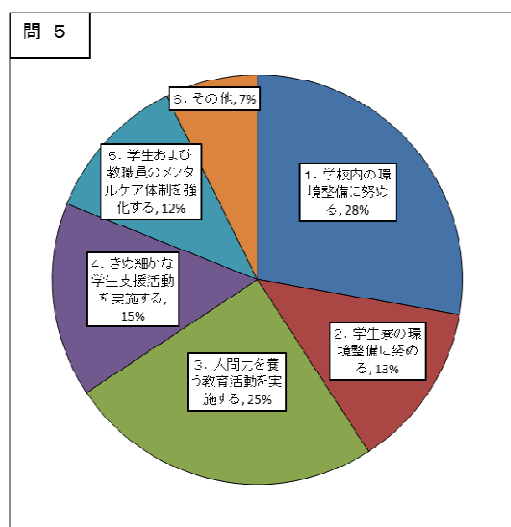
問4	あなたが不安を感じない理由は何ですか。次の中からあてはまるものを2つまで選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)	グラフデータ
	1. 校舎の改修工事が完了し明るくなったから		8	36%
	2. 講演会等を通して教職員一人ひとりの意識が高まったから		1	5%
	3. 以前から問題はなかったから		6	27%
	4. その他		7	32%
		合計	22	100%

その他の具体的記述 (記入欄が不足の場合は付け足し可)

・発生する確率が低いから
・いろいろな人とコミュニケーションをとっているつもりなので
・教員の方がしっかり指導しているから
・何かを不安と思うとすべてが不安であるため
・どんな事件や事故が起きても、私たち教職員が全力で学生たちを守るという意識で職務にあたるべきと思うから、
・学生の性格がおおむね良好であり、学内の雰囲気が出るから
・着任して間もないため



問5	あなたは、安全で安心できる環境をつくるためには、どのような取り組み、対策が特に有効だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選び、その番号に○印をつけてください。	データ数 (正の字を記入)	合計 (数字)	グラフデータ
	1. 学校内の環境整備に努める		38	28%
	2. 学生寮の環境整備に努める		18	13%
	3. 人間力を養う教育活動を実施する		34	25%
	4. きめ細かな学生支援活動を実施する		21	15%
	5. 学生および教職員のメンタルケア体制を強化する		16	12%
	6. その他		10	7%
		合計	137	100%



その他の具体的記述（記入欄が不足の場合は付け足し可）
・入溝者へのマナーを徹底する
・学生及び教職員の安全への意識を高める工夫をする。
・学生(教職員も?)が楽しいと思える課外活動等の活性化。学業がさほどでなくても居場所があるようにしてあげること。
・教職員と学生のコミュニケーションの構築。教職員と学生双方の信頼感。安全で安心できる生き生きとした学校。
・形だけでなく、学生の心をしっかりと鍛えることを行う。(むずかしいです)
・何のための対策なのかの説明責任を全うする対策・検討の必要性。
・何が安全で、何を持って安全とし、どうすれば安全にできるのか、を考えさせ、自らの答えを探し、協同する人々と摺合せできる考え方を身に着けること。
・安全は環境(システム、機械や道具、スケジュール、マニュアル、原則、分かりやすさ)で、安心は人間(人とのつながり、この人がいるから安心・・・、教育、何をもちて安心できるか)で確保します。
・日常の声掛け
・教職員が気持ちよく働ける環境づくり
・教員数や非常勤講師数を増やし、各教員がゆとりをもって学生に接することができるようにする。
・進級基準をやさしくし、学生のプレッシャーを減らす。
・教員のアイデンティティークライシスを避けるため、研究しやすい雰囲気を作る。私は毎日イライラしています。研究に打ち込みたい。高専教員は学生指導、低学力者対策をどこまですべきか。理想を求めたら、持っている力・時間の100%をそれに向けてることになります。反面、研究に対する応援はほとんどありません。これではバランスが取れません。アイデンティティークライシスです。研究しない高専教員となることへ恐怖を感じます。
・グラウンド管理棟も鍵をかけた方がよいかもしれない。
・教務関係、特に進級基準を見直す

(3) アンケート結果の分析

学生アンケートの回収率は74.0%(828名/1119名)、教職員アンケートの回収率は47.1%(64/136)であった。

問1の「不安を感じることもあるか」に対しては、「感じることが多い」「たまに感じる」を合わせると、学生は18%、教職員は69%と大きな差が出た。教職員の回収率の低さを考慮に入れても差は非常に大きく、日常に不安を感じている教職員が多いと言える。反面、学生は事件の後でもあまり不安を感じていないようである。しかし、事件の該当学科である物質工学科は多くの学生が不安な気持ちを抱えていることがわかる。

問2の「不安を感じる理由」に対しては、学生は「漠然とした不安」が最も多く、「暗がりや見通しの悪いところ」、「部外者の侵入」、「コミュニケーション不足」といった具体的な不安要素はほとんど差がない。教職員は学生とは逆に、「漠然とした不安」は最も少なく、「暗がりや見通しの悪いところ」、「部外者の侵入」などの具体的な不安を挙げる人が多かった。その他の記入を見ると、学生は「盗難」の不安が最も多く、次いで「交通事故」、「学業」について不安を感じているようである。教職員は「業務多忙によるコミュニケーション不足」や「学生のメンタル面の弱さ」等の目に見えない部分を危惧している意見が散見される。

問3の「不安を感じる場所」に対しては、学生は「トイレ」、「教室」、「3号館」、「大講義室」が多かった。「トイレ」は人気がない、「教室」は盗難が起きやすい、「3号館」は吹き抜けが危険、「大講義室」は事件現場ということで、不安原因がはっきりしている場所に多くの意見が集中して

いる。これに対して教職員が挙げた場所は多岐に渡っており、普段の生活に基づく身の回りの危険箇所を述べたものと推察される。複数意見としては「多目的広場への通路」、「3号館吹き抜け」、「第2体育館周囲」があった。学生の意見と教職員の意見を総合すると、学生は「トイレ」、「教室」などの普段使用頻度の高い場所に不安を感じ、教職員は使用頻度にかかわらず真に危険と思われる箇所に不安を持っていることがわかった。さらに、両者ともに挙げている「3号館吹き抜け」は最大の危険箇所と言えるだろう。早急な安全対策が望まれる。

問4の「不安を感じない理由」に対しては、学生は「以前から問題はなかった」が過半数を占め、今回の事件は自分や学校に関係ない特殊な出来事だと捕らえている人が多いようである。ただし、その中身を具体的記述から探してみると、学校生活を積極的・肯定的に送っている学生と消極的・無気力に送っている学生に分かれていることがわかる。教職員は「改修して校舎が明るくなった」が多数を占め、物理的に明るい雰囲気は不安感を払拭する大きな要因であることを示している。また、その他の比率も高かったが、具体的には「自信を持って教育に当たっている」と回答した教員が多いのは頼もしい限りである。

問5の「安全安心への取り組み、対策」に対しては、学生、教職員とも意見が分かれたが、傾向はまったく同じで、「学校内の環境整備」が最も多く、次いで「人間力を養う教育活動」の順となったが、「寮内の環境整備」、「きめ細かな学生支援活動」、「メンタルケア体制の強化」もかなりの回答数を集めた。学校および寮を安全で安心できる環境に整備してほしい、勉強だけでなく社会の中で活動し生きていく力を育ててほしいという学生・教職員とも物心両面の要望が広く現れる結果となった。一方、具体的記述を見ると、一部の学生に「人とかかわらない」、「何をしても無駄」、「興味ない」、「先生次第」等の投げやりな回答が散見されるのは非常に気になるところである。教職員の具体的記述には「教職員が働きやすい環境づくり」、「学生が環境面でも学業面でも安心して過ごせる学校づくり」が多く見られた。教職員の立場、学生の立場双方への目配り・気配りが必要ということであろう。

以上アンケート集計結果を分析してきたが、問5の「安全安心への取り組み、対策」で学生と教職員の回答傾向が一致した以外はすべて対照的な結果となったのは興味深い。集計結果から読み取れる学生は、学校生活に問題はなく、今回の事件も自分には関係ないので、あまり不安を感じていないが、盗難、交通事故、人気のない場所、吹き抜けのある高所などの身近な部分には不安を感じている。また、思春期特有の「将来に対する漠然とした不安」を感じている学生も少なからず存在する。さらに気にかかるのは、学校生活

に目標を失った学生が少数ではあるがいるようだ。この学生たちを何とか立ち直らせることが教育者としての務めであろう。幸い本校には誠心誠意教育に取り組んでいる教員が多数いるので、彼らの教育力に期待したい。

教職員は回答数が少ないので全体像を捉えることは難しいが、回答結果から言えることは、不安を感じている人が多く、その理由も具体的な危険箇所から内面的な不安要因まで幅広い。少なくとも回答を寄せてくれた教職員は、教育者としての立場からみて学生よりはるかに現状に不安を感じていることがわかる。問題は残り半数の未回答の教職員である。教職員全員が同じ意識を持って取り組まなければ安全安心な学校づくりはできない。現状を良しとせず、常日頃からリスク事象に目を配り、“学生にとって、そして教職員にとっても安全・安心な学校づくり”に向かって前進していかなければならない。

9. 危険箇所および不安要因の改善状況

(1) 環境整備

- 1) 事故・事件や不審者の侵入を防止する施設設備の整備として
 - ・関係者以外の入校制限に関する標識を設置した。
 - ・外灯をLEDに改修することで、夜間の安全、安心を確保した。
 - ・清花寮を自動ドアに改修し、入退室管理システムを導入した。
 - ・講義室のサムターンを撤去し、閉じ込めを防止するよう改修した。
 - ・学生寮の屋上出入口を施錠した。
 - ・電算機室に、入退室管理システムを導入した。
- 2) 事故・事件や不審者を早期に発見できる施設設備の整備として
 - ・校内及び学生寮に防犯カメラを増設した。
 - ・第一体育館女子更衣室の照明点滅回路を人感センサーに改修した。
- 3) 事故・事件・災害に対する安全な避難経路の整備として
 - ・第二体育館側道路及び学生寮通路に消雪パイプを設置し、冬季の避難経路を確保した。

(2) 教育体制

- 1) 教育内容の充実策として
 - ・「安全で安心できる環境を目指した取り組み」を印刷したチラシを学生・保護者に配布した。
 - ・企業実習参加率が目標の50%近くまで上昇した。
 - ・英語教育に関する勉強会を開始した。
- 2) 教育体制の改善・教員の能力向上策として
 - ・前年度改訂した卒業・進級に関する規定の実施を開始した。改訂により不利益を被る学生は現れなかった。
 - ・混合学級の導入に向けた検討を開始した。
 - ・学科・専攻横断型コース制の導入に向けた検討を開始した。
 - ・物質工学科において女性教員2名の採用を決定した。
 - ・教員交流における学科持ち回り派遣制を決め、平成24年度は機械工学科教員の派遣を決定した。
- 3) 学習環境整備として
 - ・「美シュランガイド」を継続し、教室の美化を図った。
 - ・毎週月曜日朝のSHRを完全実施体制に格上げした。
- 4) 学生会活動として
 - ・学生会行事への参加を促すために、欠席者は皆勤賞から除外することとした。

- ・ 1年生は全員クラブへの入部を義務付けた。
- 5) その他の取り組みとして
- ・ 1年生合同保護者会を実施した。
 - ・ 図書館カウンター業務補助学生を増員し、安全強化と低学年学力支援を行った。
- (3) メンタルケア体制
- ・ 外部カウンセラーを1名増員して2名体制、内部カウンセラーを2名増員して9名体制とし、さらに内部カウンセラーはハラスメント相談員兼任として学生相談室体制を強化した。
 - ・ 学生相談室スタッフと学級担任の面談を6回実施し、連携を強化した。
- (4) リスク管理
- ・ リスク管理および危機対策に関する規定を一部改正し、リスク顕在化の防止及び危機への対応を明確化した。
 - ・ リスク管理および危機対策に関する規定において、リスク管理体制及びリスクへの対応を明確にし、リスク事象の点検及び発生の未然防止を図った。
 - ・ 消防計画自主点検を行い、不適切箇所の改善を要求した。
 - ・ 非常食の備蓄と水浄化装置等の整備を行った。

10. まとめ

事件の再発を防ぐために実施できることを主眼に提言をまとめ、さらに全学生および全教職員に安全安心に関するアンケートを行い、危険箇所の洗い出しと学生の不安要因の特定を行った。その結果を基にした改善状況の現状を述べた。予算的および時間的な制約から、改善が十分進んでいるとは言い難いが、ひとまず事件から1年後の総括として報告したい。今後、リスク事象の定期点検を続けると同時に、環境面と教育面の改善を継続していくよう強く要望する。

ワーキンググループメンバー

山田 隆一（総務主事）：グループ長
中村 奨（電気電子システム工学科）：副長
田中 聡（一般教育科）
池田富士雄（機械工学科）
高橋 章（電子制御工学科）
赤澤 真一（物質工学科）
衛藤 俊彦（環境都市工学科）
総務課長
学生課長
総務課長補佐（庶務担当）
学生課長補佐